



年配の方が子どもたちをリードしながらホット苗の植え付けを行う
(松江市立穴道小学校)

「松江方式による屋外運動場芝生化事業」の役割分担

- 松江市：
設備・備品・消耗品の購入
初期投資として必要なスプリンクラー、倉庫、芝刈機、肥料散布機を学校毎に購入(1校あたり約700万円)。維持管理に必要な消耗品・原材料費として、肥料、芝の種は、毎年、市が購入(1校あたり約40万円)
- 地域住民：
苗の植え付け／維持管理
- 小学校：
事務局機能
- 島根県協会：
技術指導
松江市に対する技術指導を実施。小学校の校庭を利用する野球団体などにも配慮する。
- その他：
苗の供給(地元の農協が苗を生産)

庭は地域住民にも開放。芝生づくりから維持管理まで地域一体となつて取り組むほか、学校のクラブ活動でグラウンドゴルフなどを一緒に行うことによつて、子どもたちと地域の人々の交流を図っている。



芝生化された近江八幡市の馬淵小学校

■滋賀県近江八幡市

(2015年7月認定・第2号)

より充実した教育環境を子どもたちに提供することを目的に、近江八幡市は2010年から校庭芝生化事業をスタートさせた。市内の小学校12校のうち6校をポット苗方式により芝生化。子どもたちが体をいっぱいに使つて芝生の上を駆け回ること、豊かな心を育むと同時に体力の向上を図ること。そして、地域住民の協力によつて芝生化を進める中で、芝生の成長と共に子どもたちの成長を地域で見守つていける環境を創造しようと考えた。

芝生づくりとその管理は、JFAグリーンプロジェクトの協力団体でもあるグリーンスポーツ滋賀のサポートのもと、学校の関係者やPTA、地域住

民が共同して取り組んでいる。校庭は平日の夜間と休日に開放し、地元サッカースポーツ少年団の練習や地区トレスンで使われるほか、地域の運動会が開催されるなど、地域の人々がスポーツを楽しむ場として広く活用されている。

* * * * *

松江市と近江八幡市、どちらも校庭芝生化によつて、外に出て遊ぶ子どもが増え、伸び伸びと運動する姿が見られるようになった。転倒してもけがをすることが少なくなった、運動場の温度上昇を抑制できることから温暖化防止・熱中症予防の効果が期待できる、砂埃が減少し近隣住民の住環境の向上が図れるなど、うれしい変化が見られる。また、芝生を維持するには芝刈りや肥料の散布など、継続して管理を行う必要がある。それだけ手間がかかるが、地域の人々が集まる機会は増え、自然と交流が生まれていく。子どもたちにとつても、体力向上だけでなく、自分の手で育てた芝生を大切にすする心が生まれ、自然や人との触れ合いを通して多くを学びながら成長していける環境が生まれている。

緑に輝く芝生の校庭——それは地域の豊かな人間関係をつくり、健康やかな心と体を育む大きなきっかけとなっている。

〈川淵三郎キャプテンが語る〉

芝生の広場が人々の人生をより豊かにする

Jリーグがスタートするとき、私が「日本全国の小学校の校庭を芝生化したい」と言ったら誰も相手にしてくれなかった。メディアにも取り上げられることはなかった。それが今では、全国で芝生化の動きがどんどん広まっている。

JFAの芝生特区に認定された島根県松江市や滋賀県近江八幡市では、校庭芝生化に熱心に取り組んでもらっている。また、長野県松本市の菅谷昭市長からは、松本市内の40以上ある幼稚園の園庭を全て芝生化してもらったという嬉しい報告もあった。

僕の原点は、ドイツのデュイスブルクで見たスポーツシユレだ。林で囲まれた敷地内に、緑の芝生のグラウンドが広がるあの光景。リスや野ウサギたちが楽しそうに芝生の上を駆け回っている。僕が初めてこの芝生に触れたとき、芝生が深くて下の土まで手が届かなかった。施設の人に聞くと、「1週間連続して使つても、この芝生ははげないよ」と言われたのをよく覚えている。その芝生の上でデットマール・クラマーさんに毎日のようにヘディングの練習をさせられた。普通は練習が終わると疲れ果てているから夕食をとつたら早めに寝てしまうのだけど、その時は寝るのも惜しく、練習が終わつてもほとんど芝生の上にいる。僕は小さい頃いろんなスポーツ

が好きだったから、「ドイツに生まれた人は幸せだな」としみじみ思つたものだ。

現代の子どもたちを取り巻く環境が大きく変化して、外で遊ぶ子どもたちが減り、体力の低下が危惧されている。僕が「芝生化」と言うとき、サッカーのためだと誤解されることが多いが、そういうことではない。転んでも痛くないし、けがをしにくい。裸足で安心して遊べる芝生の広場があれば、子どもたちは外に出て走り回ったり、芝生の上で寝転んだりしたくなるものだ。最近では、老人ホームに芝生の庭を作ろうという事例が出てきた。お年寄りも芝生の庭があれば、積極的に外に出て芝生の上で日向ぼっこをしたり寝転がったりするに違いないと思つている。そういう意味でも、芝生のある環境は人々の健康増進のために絶対に必要なのだ。

欧米などのスポーツ先進国では、老若男女がスポーツを楽しむ場所があり、そこにいる人々の世代の人たちが交わることでコミュニティが生まれ、子どもたちもその中でいる大人と触れ合いながら思いやりや社会性を身に付けていく。未来を担う子どもたちのために、皆が豊かな生活を送るために、芝生のある環境の重要性を多くの方に理解してもらい、全国でより芝生化が進んでいってほしいと思つた。